

世田谷ボランティアビンゴツアーズで巡る地域活動

【要旨】

世田谷ボランティアビンゴツアーズ(通称:世田谷ボラビン)が誕生した背景として、医療・介護・福祉系の慢性的な人材不足および世田谷区内に 1401 団体ある地域活動団体の団体間連携を実現させるためには、新しい中間支援機能が必要なのではないか、という課題があった。しかし、いきなり中間支援組織を結成するのではなく、まずは中間支援機能につながるプロジェクトから始めるべきではないか、との見解から、ボランティア活動で地域団体をめぐり、参加者と団体、団体と団体、参加者と参加者が繋がる仕組みを持つ世田谷ボラビンが発足された。ボランティア参加が実現した 2 つの事例と、ボラビンナイト、ボラビン祭りなどの企画イベントの中で、商店街住民と医療ケア児との交流や、SNS ではなく地域拠点からの告知によって初参加した方の感想にふれ、それらは世田谷ボラビンの真骨頂ではないか、という気づきを得た。今後、Season2 ではさらに飛躍する所存である。

鈴木 景子

SUZUKI, Keiko

(世田谷ボランティアビンゴツアーズ実行委員)

1. はじめに

世田谷区内には、区と関わりを持つ市民活動団体が 1401 団体ある¹⁾。そのうち、医療・高齢・障害者福祉関連や子育てに関連する非営利活動団体も多く、92 万人を超える世田谷区民にとって、こうした団体の活動が大きな支援となりうることは、団体数から鑑みても明らかである。しかし、区と関わりがあるとはいえ、団体同士が必ずしも繋がっているわけではなく、世田谷区内の草の根的活動において、1 団体で出来ることは限られてくる。令和 4 年度の調査によれば、介護サービスに従事する従業員の過不足状況について、66.3%の事業者が人材不足と感じている²⁾。こうした現状を打破する鍵は、団体間が連携することにある。団体間の連携により有機的に活動の幅が広がれば、区民一人ひとりに団体の存在が周知され、団体活動における課題解決に向けた一歩となるのではないかと。

以上を踏まえ、当団体の実行委員によるプロジェクト「世田谷ボランティアビンゴツアーズ」が発足された。

実行委員は表 1 のとおり。

世田谷ボランティアビンゴツアーズ実行委員	
令和5年7月 結成時から	工藤賀子 (one pass promotion代表)
	進藤義夫 (NPO法人障害者支援情報センター代表)
	松村克彦
	筆者
	いわみん
令和5年11月加入	二河等 (hug-luma代表)
令和6年1月加入	坂田麗子
令和6年3月加入	藤田果林
令和6年7月加入	谷中謙介 (三軒茶屋まち道楽実行委員)

表 1 (実行委員一覧)

2. 世田谷ボランティアビンゴツアーズの誕生と仕組み

「世田谷ボランティアビンゴツアーズ(通称:世田谷ボラビン)」のプロジェクトは、令和5年7月に行われた、中間支援についての意見交換から始まった。世田谷区副区長の松村氏は「世田谷区で中間支援機能を生み出せないか³⁾」と考え始めていた。その年の6月より、松村氏の執務室である副区長室の壁には絵画が飾られるようになったが、これは区内福祉事業所利用者によって描かれたものである。月額サブスクリプションで借りることで、福祉作業所と地域や区民を繋ぐ役割を果たしている。これもひとつの中間支援であった。その同時期に、区内の地域活動団体間の連携を試みていた筆者と、非営利活動団体等への伴走型広報支援を手掛けていた工藤氏、障害者支援事業所の支援活動を拡大しようと考えていた進藤氏の3名が、以前からそれぞれ繋がりのある松村氏を訪ね、世田谷区内の中間支援機能の新しいあり方についてブレインストーミングを行った。地域における知名度が高まらないことで、団体運営が難しいと感じている団体も存在している。その課題を解決させるために、人と人、人と地域を繋げる中間支援機能は必要だが、最初から組織を立ち上げるよりも、まずは中間支援のきっかけ作りとなるプロジェクトから始めてみるのはどうだろうか――。

3 か月に及ぶ意見交換により、福祉を中心とした団体の活動に、区民がボランティア体験することで、団体の活動を知り、地域に持ち帰って周知してもらうイベント企画が提案された。さらに話し合いを進め、一日限りの一過性のものでも、惰性で続くものでもなく、楽しむ要素を含んだ半年間の期間限定とし、その期間内の状況を踏まえて継続の有無を考えるという内容で決定した。それが世田谷ボラビンである。

キャッチフレーズは「気軽に1時間だけボランティア体験! 世田谷の非営利活動団体や福祉の活動を体験し地域と繋がろう」とした。体験時間が1時間であるのには理由がある。半年間で複数の団体に参加してもらうには、体験時間は長すぎない方がいいと判断したためだ。

このプロジェクトの肝でもある、楽しむ要素は「ビンゴ」である。まずは地域団体に働きかけ、世田谷ボラビンへ団体登録をしてもらったら、こちらで登録番号を附番する。次に、登録された団体(以下、登録団体)のリストを見て、ボランティアに興味がある個人が、ボランティア参加者として参加者登録をしたら、こちらからビンゴカードを発行する。また、半年間でビンゴ達成の数が多い参加者には、半年後のフィナーレで賞品が贈呈される。ボランティア参加者は、登録団体の登録番号とビンゴカードを照合しながら、個々の活動に原則として1時間だけ参加し(参加者と登録団体間で合意があれば1時間を超えても可)、半年間でいかにビンゴの列を多く作ることが勝負となる。そこを楽しませることが出来れば、登録団体の活動も活性化し、世田谷ボラビンは成功する――、実行委員はそこに賭けた。



図 1

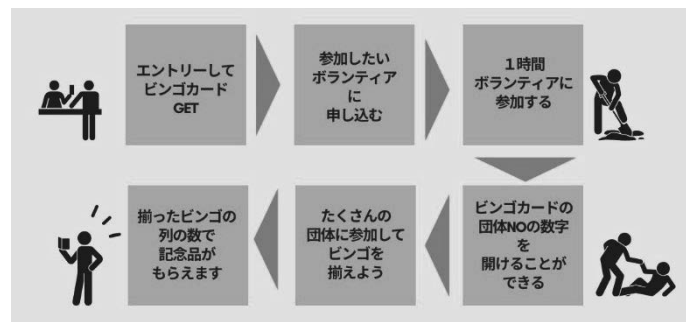


図 2

（世田谷ボラビン公式ホームページに掲載している「ボランティア活動の流れ」）

3. 世田谷ボラビンの目的

世田谷ボラビンの説明をするとき、その主目的がボランティア活動と受け取られる。確かに、ボランティア活動も俯瞰でとらえれば目的といえる。だが 2. で記述したとおりこのプロジェクトは、地域の団体を繋ぎ、団体の活動を広く区民に周知することにある。ただし、ボランティアが活動団体を知ってもらうための方法のひとつであったとしても、ボランティアと謳うからにはボランティアの基本から外れる仕組みであってはならない。東京ボランティア・市民活動センター(以下、TVAC)では、ボランティアの原則として「自主性・主体性」「社会性・連帯性」「無償性・無給性」「創造性・開拓性・先駆性」を掲げている⁴⁾。世田谷ボラビンでも「地域社会でのつながりの創造」と目的を明文化した。TVAC をなぞったわけではないが、その示すところの「社会性・連帯性」と「創造性」が含有されている。その上で、ボランティア参加者および団体には、「理念への共感」として、目的への共感と、ボランティア参加者には「自己の責任のもと、世田谷ボラビンに参加すること」、団体には「団体の責任のもと、世田谷ボラビンの受入団体となることを同意すること」とし、ボランティア参加者に対してボランティア保険への加入を条件に加えた。この部分は、TVAC の「自主性・主体性」が当てはまる。当然のことながら、ボランティア参加者に報酬が支払われることはない。まさに「無償性・無給性」である。無償、無給ではあるが、達成感はあると自負している。そして「開拓性・先駆性」でいえば、世田谷区内において、これまでボランティアを行う際に、ビンゴカードを携えて行うツアーを、半年間という期間限定で取り組んだ事例は確認していない。だがもし、過去においてそのような事例があったのなら、ぜひ参考にしたい。

4. キックオフイベント

世田谷ボラビンの開始は令和 6 年 1 月 11 日のキックオフイベントからであるが、それに先駆けて令和 5 年 12 月 20 日に公式ホームページと Facebook ページを公開した。キックオフまでわずか 22 日、しかも年末年始にかかるというスケジュールの中で、準備は急ピッチで行われた。

とくにホームページは公開後も微調整が繰り返された。広報を担当している工藤氏はチラシの色合いも含め、より多くの閲覧者の目に留まるよう、わかりやすく親しみやすいレイアウトを心掛けた。その結果、ピンクとターコイズで全体が統一され、多様性の感じられるデザインに仕上がった。

こうして1月11日のキックオフイベントを迎えた。進藤氏が

受付を務める中、松村氏から世田谷ボラビンの概要が伝えられ、実行委員の紹介と工藤氏からの広報に関する説明後、二河氏によるワークショップへと続いた。司会である筆者は、タイムキーパーを務めた坂田氏とともに、時間配分を調整しながら、約2時間のイベントは16名もの参加者により、盛大に幕を開けた。チラシの裏面にある、いわみん氏制作のクロスワードパズルを解いた参加者にはちょっとした賞品も用意していたが、なんと全員正解だったため、賞品はすべての参加者へ行き渡った。

5. ボランティア活動事例

5-1 記念すべき第1号「イヴの木カフェ@駒沢中学校」

1月11日のキックオフの翌日である1月12日、第1号のボランティア参加が実現した。一般社



図5 (イヴの木カフェでの調理風景)



図3 (告知チラシ表面)



図4 (告知チラシ裏面)

団法人イヴの木が主催する「イヴの木カフェ@駒沢中学校」での、様々な理由で孤立しがちな地域の方々に向けたカフェの調理補助である。参加者 A 氏は、元中華料理職人・ミスター鈴氏の指導のもと、野菜のカットや料理の盛り付けを行ったほか、ランチを注文したカフェの利用者との対話にも参加した。A 氏の人柄もあってか、利用者と共に和気あいあいとした楽しい空間となり、1 時間はあっという間であった。残念ながら A 氏のビンゴカードには登録番号の№21 が無く、カードの裏面に登録団体名と日付だけ記載し、ボランティアは終了。A 氏は「初めての体験だったが、ミスター鈴料理長との料理はとても勉強になった。また参加したい」と大変満足した様子であった。受け入れ側の登録団体も、初めての試みではあったものの、料理を担当したミスター鈴氏は、「地域の活動に新たな風が入る

のはとても良い。次回も、参加者が体験するなら、喜んでお願いしたい」と喜びを言葉にした。第 1 回のボランティア活動が、参加者・登録団体双方にとって、大成功であったことがうかがえた。

5-2 Ohana kids ステーション

1 月 23 日、医療的ケア児・重症児のデイサービス・Ohana kids ステーションへのボランティアとして、松陰神社通り松栄会商店街振興組合から 2 名がボランティアに参加。内容は、翌月の節分に合わせて、デイサービスを利用している子どもたちと「鬼のお面作り」を手伝うというもの。商店街からほど近い立地とはいえ、商店街の住民との触れ合いは初めてだったが、子どもたちと「この色でいい?」「こっちの方が好きなのかな?」と会話をしながら、子どもたちも参加者も、ともにお面作りに熱中した。Ohana kids 施設長からは、「たくさんの人たちに Ohana のこどもたちのことを知っていただきたい」「こんなふうに触れ合っていたく機会ができてありがたい」との感想が寄せられた。医療的ケア児や重症児が利用する施設の活動は、関係者以外に参加する機会はあまりないと思われる。そうした中、地域社会を経済面で支える商店街の住民が、ボランティア活動を行うことは、大変に意義深く、世田谷ボラビンの活動の真骨頂ともいえるだろう。



図 6（鬼のお面）



図 7（お面作りの風景）

5-3 第 1 回ボラビンナイト

ボラビンナイトとは、ボランティア参加者と登録団体らが一堂に会し、交流を深めながら今後の抱負を語り合う交流会である。ボランティア参加者はここでビンゴカードの好きな数字を空けることができる。第 1 回は松陰神社商店街にある「100 人の本屋さん」にて 2 月 27 日に開催した。参加人数は 25 名。自己紹介と情報交換をメインに、ボランティアを迎えた登録団体の感想や、ボランティア参加者の体験談が語られた。ここでの大きな収穫は、ほぼ毎週、あらゆる登録団体の活動に参加しているボランティア参加者・赤堀仁紀氏の存在が明らかになったことである。



図 8（第 1 回ボラビンナイト記念写真）

赤堀氏は、世田谷で 2010 年からボランティア活動を継続的に行っており Facebook で世田谷ボラビンを知ると、さっそく参加し始めた。他のボランティア参加者は、赤堀氏の活発な参加に触発され、その後、次々と予約をするきっかけとなった。赤堀氏はまさに、ボランティア活動に大きな影響を与えた、世田谷ボラビンのイ

ンフルエンサーといえる。

5-4 第2回ボラビンナイト

第2回は、千歳烏山駅から徒歩からほど近い、コーシャハイムにある「コミュニティカフェ・ななつのこ」にて開催した。参加者は20名。ミスター鈴氏による本格中華料理のケータリングを囲んでの交流会となった。この日は、ななつのこによる告知を目にした近隣住民が、わからないながらも初参加した。このことは、会にとってひとつの成果に繋がった。これまではFacebook等のSNSからの参加が主であったが、地域の紙媒体による告知で参加登



図9 (第2回ボラビンナイト記念写真)

録に繋がることも、発足当初からの目的である。SNS全盛時代に、他の告知手段で全世代的にアプローチできれば、さらに層の厚い取り組みへと発展することが期待できる。ボラビンナイトの位置づけが、参加者と登録団体との懸け橋的な要素が強いのは事実だが、世田谷ボラビンの広報という視点でとらえると、今後は新たな参加者確保も意識したプログラム作りが求められるだろう。

5-5 第1回ボラビン祭り

ボーナスタイムと称し、一日で数か所の登録団体をツアーで巡り、連続でビンゴカードを空けていく「第1回ボラビン祭り」を、5月19日に開催した。ツアー行程は以下のとおり。

▼ボーナスタイム① 9:00～11:00

@慶元寺駐車場(世田谷区喜多見 4-17-1)

- ・せたがや喜多見 農とみどり
- ・陸前高田応援団

→バスで狛江駅に移動～小田急線で下北沢へ。

12:00頃下北沢駅へ到着。下北沢で各自で昼食をとってもら

▼ボーナスタイム② 12:30～14:30

@下北沢駅東口駅前広場

- ・就労継続支援B型事業所エイト
- ・東京世田谷ライオンズクラブ

→下北沢から代田まで徒歩で移動となる。徒歩16分程度



図10 (慶元寺の朝市)

▼ボーナスタイム③ 15:00～17:00

@おでかけひろば cobaco(世田谷区代田 1-17-3)

- ・ふっくら布ぞうりの会
- ・一般社団法人北沢おせっかいクラブ

▼ボーナスタイム④ 17:00 ～19:00

@おでかけひろば cobaco(世田谷区代田 1-17-3)

- ・振り返り会(懇親会)



図 11 (下北沢大学での募金活動)

<注意事項>

1. すきなところに穴を空けられるのは、上記のボーナスタイムのみ。
2. ボランティア内容の詳細は、申込フォームを参照。
3. 参加人数により、実行委員会でボランティアの割り振りを決める。

上記を全行程参加するのが推奨ではあるが、このうち、都合の良い時間帯だけの参加も可能。柔軟性のある企画で、より多くの参加者にビンゴを達成してほしいという意図があった。

当日は初参加者を含め、振り返り会まで総勢 14 名によるツアーとなった。最初の活動場所である喜多見・慶元寺では、農とみどり主催の「てづくり市場」にて、世田谷野菜や陸前高田の復興を支援する名産品の販売補助のボランティア。朝早くから買い物客でにぎわう境内で地域住民と触れ合いながらの従事となった。

ツアー2 か所目は、下北沢駅前にて、障害者支援情報センターが主催するマルシェ「下北沢大学」にて、区内複数の福祉作業所手づくり商品販売のボランティアと、東京世田谷ライオンズクラブによる能登および台湾地震復興支援募金の呼び掛けを行った。募金活動は初めてという参加者もいた。こうした初体験の場となることも、世田谷ボラビンの狙いのひとつである。

ツアー3 か所目は、一軒家を拠点としている「おでかけひろば cobaco」にて、北沢おせっかいク



図 12 (cobaco での振り返り会)

ラブによるフードバンクの整理、ふっくら布ぞうりの会による布ぞうり用のヒモをアップサイクルするボランティア。本来、捨てられる部分をヒモ状にし、布ぞうりの材料として再利用される。老若男女問わず従事できる作業であり、ボランティア参加者を選ばないところに多様性が感じられた。

最後はそのまま cobaco にて振り返り会を行った。ツアー1 日の感想を一人ひとり述べながら、互いを労い合った。

このツアーがきっかけで、ボランティア参加者の多くがビンゴまたはリーチとなり、それぞれのモチベーションも高まった。また、ツアーで一緒に回ったボランティア参加者同士の連帯感も強まった。世田谷ボラビンは、実行委員だけでなく、参加者の力によって支えられている。ボラビン祭りはそのことを改めて実感できる、良い機会であった。

5-6 第2回ボラビン祭り

6月20日、「第2回ボラビン祭り」を開催した。平日ということもあり参加者は8名。そのうち1名は初参加者であった。ツアー行程は以下のとおりである。

▼ボーナスタイム① 9:30~10:30

@ウッドペッカーの森(世田谷区松原 6-4-1)

梅ヶ丘駅前の精神障害者向け就労支援 B 型/生活介護事業所

ゴルフボールの仕分けとネジの袋詰め作業に参加

→車で千歳船橋へ移動

▼ボーナスタイム② 11:00~13:00

@風の谷プロジェクト (世田谷区船橋 2-21-28)

千歳船橋近くの就労継続支援 B 型事業所

切手を仕分けて貼るなどの作業および昼食の調理に参加

▼ボーナスタイム③ 14:00~15:00

@ハーモニー 弦巻三丁目公園(世田谷区弦巻 3-10-17)

公園清掃に参加

▼ボーナスタイム④ 16:00~17:00

@リハサロン祖師谷(世田谷区祖師谷 6-5- 8-102)

祖師谷六丁目のリハビリ型デイサービス。

庭の草むしりと窓ガラス清掃



図13 (ウッドペッカーの森のゴルフボール)

ツアー1か所目はウッドペッカーの森である。ここでは、精神障害者当事者である利用者とともに、ゴルフボールの仕分けとネジの袋詰め作業を体験した。特筆すべきは、利用者一人ひとりの能力の高さである。ゴルフボールは、ボールに印刷された表示の細かい差異を頼りに仕分けを行う。ボランティア参加者が3人でやっとカゴ1杯分の仕分けが終わった頃、利用者は1人でカゴ3杯分を終えようとしていた。一目ではわからない文字の違いを見分ける速さは、参加者が3人で取り組んでも敵わないほどである。思わず「すごい」と声を漏らした参加者たちに対し、利用者の誇らしそうな表情が、非常に印象的であった。

ツアー2か所目は風の谷プロジェクトにて、切手の仕分けおよび献立決定の段階から昼食の調理に参加した。その日の献立はその日に決めるルールで、利用者が何を食べたいか、それにはどんな食材が必要か、金額の計算から買い出しまで利用者とともに考える行程は、とても大切な作業であることを知った。調理後、利用者と一緒に昼食をとっていると、利用者は自分たちで作った料理の出来栄を言葉にし、満足しながら食べていた。その様子は微笑ましく、利用者を身近に感じられる時間でもあった。

ツアー3か所目は、ハーモニーが行う公園清掃に参加した。場所は弦巻三丁目公園。日々の清掃

の成果か、あまり枯れ葉などはなかったが、夜中にゴミが放置されるようで、植え込みや花壇の縁に空き缶が転がっていた。それらを何も言わずに無心で清掃している利用者の姿勢は見習うべきである。清掃後に利用者の皆さんと一緒に飲んだジュースの味は格別であった。

ツアー4 か所目は、リハサロン祖師谷。ここでは庭の草むしりと窓ガラス清掃を行った。室内では利用者がレクリエーションを行っている時間帯でもあり、施設の外はボランティア参加者のみであったため、みな、窓ふきや草むしりに集中した。8名のうち6名が草むしりを行った結果、1時間で見事に一面、雑草が抜き取られた。窓ガラスも見違えるほど輝いており、参加者同士、ツアーを完遂した喜びを讃えあった。これまでのボランティアと比べると力作業も多く、団体の構成員によってはこうした作業が難しい場合もあることを実感した一日であった。



図 14（リハサロン祖師谷の草むしり後）

6. フィナーレから Season2 へ

半年間にわたる世田谷ボラビンのプロジェクトは6月30日で閉幕を迎えた。フィナーレのイベントでは、ビンゴカードの発表と入賞者への賞品の贈呈式、そして二河氏によるワークショップというプログラムであった。赤堀氏が独走状態かと思われたが、後半のボラビン祭りで追い上げたボランティア参加者と競り合った結果、一番多く列が揃った第1位は、NPO 法人訪問理美容かみのけきれいの会の久保朗氏、ビンゴ2列、総参加回数13回であった。第2位は生涯現役ネットワークの河上勇氏、ビンゴ2列、総参加回数は12回、1位とはわずか1回の差であった。そして赤堀氏は、ボラビン咲いた(最多)賞に輝いた。ビンゴ1列、総参加回数26回。ビンゴこそ1列ではあるが、その参加回数は2位以下と比べやはり群を抜いていた。その他の順位は表2のとおり。

入賞者一覧			
順位	氏名	ビンゴ列数	総参加回数
第1位	久保朗	2	13
第2位	河上勇	2	12
第3位	筆者	2	11
第4位	工藤賀子	2	8
第5位	森本	1	8
第6位	山根篤	1	7
第7位	いわみん	1	6
第8位	関屋利治	1	5
咲いた (最多) 賞	赤堀仁紀	1	26

表 2（ボラビン入賞者一覧）



図15（フィナーレに参加の保坂区長）

順位発表と入賞者への賞品贈呈式が終わった後、サプライズで赤堀氏より実行委員へ労いのプレゼントが贈られた。実行委員は一同、突然のことに大変驚きつつ、これこそが人と人、人と地域を繋ぐ意味であることを実感した。ボランティア参加者と、このプロジェクトを企画し運営する実行委員もまた、人と人との繋がりである。企画を実行した意義が、ここでも証明された思いでいっぱいであった。そのタイミングで、9月からSeason2開催の発表。会場からも割れんばかりの拍手が起こり、次回も必ず参加することを拍手の音で伝えてくれた。ワークショップでは、飛び入りで参加された保坂展人・世田谷区長もグループに加わり、大いに盛り上がった。保坂区長のフレンドリーさは、一人の区民として安心感を覚えた。保坂区長には

機会があればぜひ、一緒にボラビン祭りに参加して頂けたら嬉しい限りである。

また、フィナーレで発表したとおり9月1日からはSeason2がスタートし、Season1までは様子を見ていた団体等も新たに登録を始めた。特筆すべきは、Season1から進化したこととして、商店街等が参加団体として名を連ねていることである。例えば豪徳寺商店街からの募集で、10月13日に18回を迎えた沖縄祭りにおいて、会場撤収のボランティアを行った。そのほか、松陰神社通り松栄会商店街振興組合の募集で、10月27日の秋まつりにおいて、イベントを楽しみながら、設営や撤収のボランティアに参加した。いずれも、世田谷区民にとっておなじみのイベントであり、世田谷ボラビンとして参加できたことは、大変意義のあることだった。なぜなら商店街は産業振興だけでなく、地域コミュニティの役割も果たしている。行政とも大きなかかわりを持つ商店街を巻き込んだ活動は、長期的な視点で捉えると、フラットな形での官民連携のモデルケースになりうるからである。

7. おわりに

世田谷ボラビンは、区内で非営利活動をしている団体に、1時間だけボランティアとして参加し、ボランティア参加者が半年かけてはしごすることで、参加者と団体、団体と団体、参加者と参加者がつながるという、世田谷区初の試みであったと思われる。この世田谷ボラビンで最も特徴的といえるのは、ボランティア参加者にとって、今まで携わったこともないようなジャンルの活動にチャレンジしてもらえたということである。それはビンゴを達成させるためであったかもしれないが、それでも「とりあえず参加してみよう」という積極性が芽生えたことは、意義のあることではないだろうか。参加者自身の中に化学反応がおこれば、新たな可能性を見出すことができる。この半年間で、実行委員もまた、様々な想いを抱き、自分自身の中の変化に気づいたことは確かである。団体を運営しているリーダー同士がつながり、世田谷の地域全体が輪になっていく。その第一歩を、この世田谷ボラビンが担うことは、非常に光栄なことである一方、9月1日から

Season2 も始まりさらに意義のある事業に成長させるべく、身を律して取り掛からなければならぬ。以上のことは、筆者自身が Facebook で全体の感想として記述したことだが、それはおそらく、実行委員すべての共通認識と言ってよいだろう。さらに筆者の個人的な展望をあえて加えるならば、世田谷ボラビンでの出会いが、多様性に富み、今までにない新しい出会い方を世間に伝えていければよいと感じている。1 時間のボランティアの中で、「これほどの体験ができるのか」と、多くの受入団体やボランティア参加者が実感している。それを目の前で見ている筆者には、すでに多様なボランティア像が見えてきている。多様なニーズがあるならば、多様な参加者が関わることも必然である。将来的には他区等でも同様な取り組みを行うモデルとなり、世田谷ボラビンが他を牽引する、そんなインパクトがあってもよいのではないか。

しかしまずは、世田谷ボラビンの Season2 がさらに飛躍し、Season3 へと続くことを目指し、実行委員一同、一層の努力に励んでいく所存である。



図 16（フィナーレの記念写真）

【注】

- 1) 世田谷区公式ホームページ <https://www.city.setagaya.lg.jp/> ページ ID 986 内の区内市民活動団体一覧(令和 6 年 8 月 31 日現在)(エクセル:288KB)参照
- 2) 「令和 4 年度介護労働実態調査 事業所における介護労働実態調査 結果報告書」公益財団法人 介護労働安定センター、令和 5 年 8 月、43 ページ
 なお、参考までに、「令和 5 年度 世田谷区介護人材対策推進協議会報告書」世田谷区福祉人材育成・研修センター、令和 6 年 3 月、13 ページによれば、高齢・障害分野の事業所職員の過不足状況へのアンケートに対し、73%の事業所が「人材不足」と回答している。
- 3) note まつむらかつひこ https://note.com/k_matsumura/ 「地域社会には中間支援が必要!」、令和 5 年 8 月 27 日
- 4) 東京ボランティア・市民活動センター公式ホームページ <https://www.tvac.or.jp/> 内 <https://www.tvac.or.jp/shiru/hajime/gensoku.html> 「ボランティア活動、4 つの原則」参照